

平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

大 学 名	鹿児島大学	タイプ	A
事 業 名	米国から鹿児島、そしてアジアへ—多極化時代の三極連携プログラム		
海 外 の 相 手 校	ジョージア大学、ノースダコタ州立大学、サンノゼ州立大学、オクラホマ州立大学、タスキーギ大学、テキサス A&M 大学、ベレアカレッジ、ディポネゴロ大学、中央大学校、湖南農業大学、国立成功大学、国立中興大学、メーフアールアン大学、チェンマイ大学、ブーラパー大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、鹿児島大学の位置する地の利から「南北 600km に伸びるキャンパス」を謳い、地域社会の多様性や文化の独自性に着目した大学ならではの特性が盛り込まれたプログラムとして評価できる。また、鹿児島と米国、そしてアジアの三極を対象とするアプローチは意欲的であり、一方向の交流から双方向交流への大きな付加価値となり得るものである。さらに、三極連携での展開に対応できるクォーター制の導入や、全学の海外拠点である北米教育研究センター等の準備状況も整っており、COIL 型教育についても 2012 年からサンノゼ州立大学と 6 年間継続した実績を有していることから、事業成果が期待できる取組である。COIL 型教育の活用についても事前学習と事後学習に位置付けられており、狙いが明確である。

また、科目配置も、大学が有する教育研究分野の中から非常に特徴的な 3 分野 8 コースの科目群がバランスよく配され、COIL 型科目数についても事業年度を重ねるごとに増え、事業最終年度には 18 科目の COIL 型科目が想定されていることも評価できる。全学の取組として国際交流の体制が整備され自己資金負担率も高く、事業の実現性にも期待が持てる。

一方で、本プログラムを真に効果的なものとするためには、参加する学生の英語力の向上に向けた一層の努力が必要であり、効果的な動機付けと併せた大学としての支援体制について検討した上で十分な対応をしていくことが必要である。また、多様な連携を支えていくためのマネジメントやガバナンスについて、今後その体制の拡充が望まれる。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。